

銅メダリスト・佐藤さん、夢先生で語る



9月8日、東川小学校で今年も夢教室が開かれました。

日本サッカー協会（JFA）の主催で、東川では6年目。今年も、苦小牧出身の北京五輪・水泳銅メダリスト、佐藤久佳さん（28）と元サッカー選手（湘南ベルマーレなど）、元フットサル選手（バルドラール浦安）の川股要佑さん（29）が一緒に来校しました。佐藤さんは5年生2クラス60人の児童に「強い心で努力すれば夢はかなう」と自らの体験を語りかけました。

3歳から水泳を始め、大学1年の時、100メートル自由形で日本人選手初の50秒切りスイマーとして日本記録を作りました。2年後には日本記録を更新、アジア新記録、世界競泳大会400メートルメドレーリレーでは金メダルを取って、翌

年の北京五輪（2008年）に出場。水泳400メートルメドレーリレー競技で銅メダルを獲得しました。オリンピック大会のビデオ映像を見た子どもたちは「ヒッキー（ニックネーム）どこ？」「あつ、ヒッキーだ！」と歓声。北島康介選手からラスト泳者としてタッチを受ける時、「ヒッキー頑張れー！」と思わず大声援も飛び出しました。

輝かしい実績を持つ佐藤さんですが、「二人で東京に進学した高校1年の時、さみしくて3回も寮を脱走したこともあった」と振り返り、子どもたちは真剣に話に聞き入っていました。

ツール・ド・北海道、3年ぶりに東川コース

9月11日、第29回 ツール・ド・北海道自転車レースが3日間の日程でスタート、第1日の第1ステージ（188キロ）でキトウシ



森林公園駐車場をゴールとするロードレースが行われました。国内外19チーム、選手94人が3日間のレースに挑みました。第1ステージは約4時間の道北コース。旭川市春光台公園をスタート。「鷹栖町・士別市・名寄市・下川町・愛別町・当麻町・東川町」の3市7町を駆け抜けました。途中2カ所の山岳ポイント、中間スプリントも。山岳コースに強いのは、2年連続で

チーム優勝している「NIPPON・ヴェイニファンティーン」チーム（日本・イタリヤ）。メンバーは今年も強力で、スタキオティ・リカルド選手が4時間26分25秒でステージ1位を獲得して個人総合時間賞、ポイント賞ともにトップに。山岳賞ステージトップもやはり同チームのペルラート・ジャコモ選手が獲得しました。

管内の障害者がスポーツ通じて交流

8月28日、町B&G海洋センターで上川地区身体障害者福祉協会が主催して第51回上川管内町村身体障害者スポーツ大会を開きました。

管内16町村から約250人が参加しました。町内からは18人が参加して東川チームを結成。「ゲートボールリ

レー」「輪投げリレー」「ポトルジャラゲームリレー」「ボーリングゲーム」「玉入れ」5種目対抗戦を行いました。東川チームはゲートボールリレー、輪投げリレーの最初の2種目で他チームから大きく出遅れましたが、輪投げでいくらか盛り返して連携も良くなり



ペースアップ。ゲームに熱が入りました。東川開催は2001（平成13）年会以来15年ぶり4回目。

新米出荷始まる〜今年も全量1等米で



9月14日、東川町農協の農産物検査所（旧北立支所）で今年の新米検査が始まりました。一番検査の入庫は、15区と同農協組合長、樽井功さん（56）と高橋壽さん（68）。2人とも高品質米基準に合格する全量1等米出荷となりました。

樽井さんは、水田の経営管理を任している長男、将人さん（27）が「ゆめびりか」85俵相当分（5千100キロ）をフレコン出荷（1トフレキシブルコンテナ袋）。高橋さんは同品種139俵相当分（8千340キロ）を玄米センターにばら出荷しました。樽井さんは、水分量15％、タンパク含有量6・7％、整粒歩合81％と1等米。高橋さんも水分量15％、タンパク含有量6・8％、整粒歩合81％とどち

らも高品質米基準を達成しました。今年の米の生育は、一時期出穂遅れ、低温、長雨があったものの総じて順調に推移し、平年作以上の見通し。農協売り渡し予約量は16万3千俵（9千780ト）ですが、同農協では18万5千俵（1万100ト）の生産量を見込んでいます。

地域団体商標「東川米」として販売が始まって3年目。今年もタンパク含有量6・5％以下のマキシマム米出荷基準を設定し、さらに高品質な食料米への取り組みを始めています。町内の稲刈りは15日から本格的に始まりました。

出来秋迎え秋の水稲生産者の集い

東川町農協（樽井功組合長）は9月8日、同農協ホールで第120回東川米収穫記念秋の水稲生産者の集いを開きました。



町内の米生産者約120人が出席しました。開拓移住のために最初に入植した先人ルーツ、富山県朝日町から笹原靖直町長、水野仁士同町議会議長を招きました。

「28年産米からすべての商品に低たんぱく、アミノコース含有量の表示を導入したい」、犬飼氏は「タンパク含有量6・5％以下の米を販売し、東海コープでは一層味が深みが増した」と評価が高まった。今後高品質マキシマム米の展開を進めたい」などと話しました。

「稲作発祥の地」碑で120年目の感謝祭

9月8日、東川町営農指導対策協議会（会長・松岡市郎町長）は東川町稲作発祥の入植地に建つ「水稲発祥の地」碑前で第120回東川米収穫記念感謝祭を開きました。

松岡町長、東川町農協の樽井功組合長、同地区に初めて開拓入植した富山県下新川郡朝日町から笹原靖直町長、水野仁士同町議会議長も来町し、記念

碑を前に約20人が出席しました。松岡町長は「この地に種をまいたのは富山県の開拓者だった。今日はその本家からも120回目のお祝いに駆けつけていただいた」と120年目の豊かな秋に感謝しました。

松岡町長、樽井組合長らが稲刈りをし、刈り上げた稲穂は、23区行政区長、大門常雄さん（77）と、約2畝を引き



継いで米作りしている牧隆史さん（67）の2人が献饌（けんせん）して出来秋を喜びました。